

■リムスキー＝コルサコフ／交響組曲「シェエラザード」Op.35

「アリババと 40 人の盗賊」、「アラジンと魔法のランプ」、「シンドバッドの冒険」などでおなじみのアラビアンナイト。中東で生まれたこの物語集は世界最長のファンタジーと言われ、世界中の人々に親しまれている。どの物語も、シェエラザードという娘がシャリアール王に物語を聞かせるという設定で語られる。詳しくいうと、シャリアール王は妃の不貞により女性不信となり、毎晩若い女性と一夜を共にしては殺していたのだが、大臣の娘、シェエラザードが王に魅力的な話を聞かせると、王は次の話が聞きたくて来る日も来る日も殺せなくなってしまう。それが千一夜も続けられ、ついに心を改めた王は、シェエラザードを新しい王妃に迎えた。そこから千一夜物語とも呼ばれている。

この異国的でファンタジックな世界を絢爛豪華なオーケストラの響きで表現したのが、ロシア五人組の作曲家、リムスキー＝コルサコフ（1844-1908）だった。管弦楽法の名著を書いたオーケストレーションの達人だけあって、古典的な 2 管編成を基本としながらも各楽器の音色を存分に生かし、多彩な打楽器も加えて色彩豊かな響きをつくりあげた。何より魅力的なのは、独奏ヴァイオリンが奏でるシェエラザードの主題である。古風なドリア旋法で書かれた妖艶なメロディに、聴き手は王と同様に物語の世界へと引き込まれてしまう。また、第 1 楽章冒頭のシャリアール王の威厳に満ちた主題とシェエラザードの主題は、全楽章の基本となっている。

初演は完成年と同じ 1888 年の 11 月 3 日（ロシア旧暦 10 月 22 日）に作曲家自身の指揮で行われたが、このとき 4 つの楽章にタイトルはなかった。本人の説明をもとに、今日では各楽章に標題がつけられている。

第 1 楽章：ラルゴ・エ・マエストーゾ「海とシンドバッドの船」

王の主題に続いて、ハープを伴奏に独奏ヴァイオリンによるシェエラザードの主題が現れる。フルートがシンドバッドの軽やかなメロディを奏する。

第 2 楽章：レント「カレンダー王子の物語」

シェエラザードの主題に導かれて、ファゴット独奏が王子の主題を奏する。

第 3 楽章：アンダンティーノ・クアジ・アレグレット「若い王子と王女」

牧歌的な雰囲気の良い美しい音楽。中間部は舞曲風となり、そのあとシェエラザードの主題が現れる。

第 4 楽章：アレグロ・モルト「バグダッドの祭り、海、船は青銅の騎士のある岩で難破、終曲」

シェエラザードの主題はより技巧的になっている。輝かしい音響が全曲のクライマックスを形作る。

遠山菜穂美

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。

楽器編成：ピッコロ、フルート 2（ピッコロ持ち替え 1）、オーボエ 2、イングリッシュホルン、クラリネット 2、ファゴット 2、ホルン 4、トランペット 2、トロンボーン 3、チューバ、ティンパニ、タンバリン、バスドラム、スネアドラム、シンバル、トライアングル、タムタム、ハープ、弦五部

※スコア上の表記